

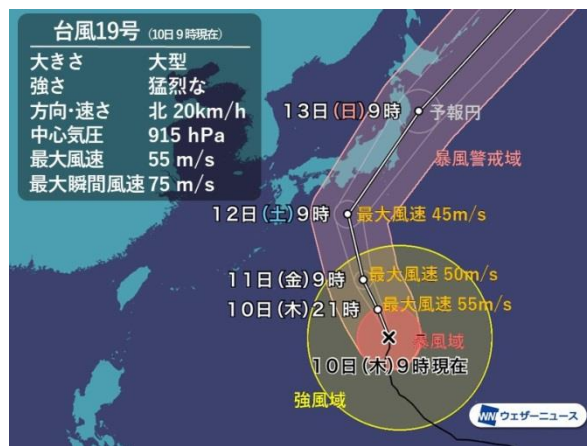
大手前高校防災通信

こあんしき 居安思危 ～ 暑外 ～

居安思危 思則有備 有備無患

～ 安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し ～

(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)



昨年夏の台風 21 号では大阪が大変大きな被害を受けたことはみなさんよく覚えていると思います。また、先月の台風 15 号では千葉県で大規模な停電が起き、屋根が飛ぶなど家屋の被害も大きく、今もまだ復旧の途中であることはニュースなどで見て知っていると思います。

そんな中、今週末には大型で猛烈な台風 19 号が日本に接近し、上陸の恐れもあります。

ニュースでは連日、台風の動向が報道され、気象庁も異例の会見を 10 月 9 日に開きました。今週末は三連休で予定を立てている人も多くいると思いますが、変更できる予定は早めに変更し、安全を担保するように心がけてください。

12 日(土)の予定(模試や自習室開放等)については 10 日のホームルームで連絡がありました。不安な人はもう一度確認しておいてくださいね。

事前に確認しておこう!

① あなたの住んでいるところの危険は何?

まずは自分たちの住んでいる場所にどのような危険があるか知っておく必要があります。急傾斜地や河川、海岸周辺の低地などは大雨が降ると土砂災害や洪水などの危険が高まります。避難が必要になるかもしれません。

避難所の場所やそこへ行くルートを知っていますか?

普段使っている道路が冠水していたり、地盤が緩んで通れなくなっていたりすることもあります。迂回ルートも事前に考えておきましょう。



大阪防災情報メール

② 気象情報について

台風では大雨についても対策が必要です。大雨に関する防災気象情報は大雨の数時間位前に「大雨警報」や「洪水警報」が発表されます。

大雨が降り続き、土砂災害の危険が高まったときには「土砂災害警戒情報」が発表されます。これはがけや山などの近くなどに住んでいる人には命の危険が迫っていることをお知らせする情報です。「土砂災害警戒情報」が発表されたら、すぐに避難できるように事前に準備を整えておきましょう。

さらに雨が降り続きこれまでにないような危険が迫っているときには「大雨特別警報」が発表されます。この段階では既に災害が起きていてもおかしくないほどに危険な状況です。

③ 避難はタイミングが大事!

避難を考えるときに大切なことはタイミングです。大阪府の「大阪防災情報メール」に登録してもらえると、府内の気象・地震・津波情報、災害発生時の避難勧告・指示情報などが配信されます。(左に登録用の QR コードを載せています。)また、気象庁のホームページやテレビのデータ放送でも様々な気象・地震情報を見ることができます。テレビのデータ放送では河川の状況についてもリアルタイムに見ることができるので、河川の近くに住んでいる人は是非活用してください。

④ 天気予報を確認しよう!

気象台では毎日 5 時、11 時、17 時に天気予報を発表しています。それにあわせて今後の天気を確認することができます。万が一、どうしても出かけなくてはいけないときには、必ず天気予報を確認し、もう一度出かけるかどうかの判断をしましょう。

今日帰宅したら、必ず地域のハザードマップを家族と一緒に確認し、命を守るためにはどのような避難行動を取る必要があるのか相談してください。

例えば避難所に避難するのか、避難するなら何時までに行くのか(暗くなってからの移動は危険です)、自宅に留まっても命の安全を確保できるかなどを具体的に考えてください。

そして、いざ避難が必要となったときに慌てずに行動できるように、一度話し合いの中でハザードマップを見ながらシミュレートしてください。

備蓄品も再度確認しておきましょう。必要なら非常用の持ち出し袋を作って、すぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。

くれぐれも安易に川の様子を見に行ったり、危ない場所に出かけたりはしないでください。人には危険が目の前に迫っていても「たいしたことはない」「自分は大丈夫」と思ってしまう傾向があります。こうした気持ちに惑わされずに、危険の兆しを見つけたらすぐに身を守る行動を取りましょう。

みなさんの週末が安全であることを祈っています。

台風から身を守る

1. 台風が来る前に

台風が接近してから屋外へ出るのは危険！情報を利用して台風が来る前に対策を！

*家の外の備え

- ・窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要ならば外から板を打ち付け補強する。
- ・庭木に支柱を立てたり、塀を補強する。
- ・溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく。
- ・植木鉢や物干し竿、ごみ箱などの飛ばされそうなものは固定するか、屋内に入れておく。



*家の中の備え

- ・雨戸を閉め、割れたときのガラスの飛散を防ぐためにガラス窓にテープを貼ったり、カーテンやブラインドをおろしておく。
- ・非常用品の確認・・・懐中電灯、携帯ラジオ、救急薬品、衣類、貴重品、非常用食料、携帯ボンベ式コンロ、マッチなど
- ・断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。



*避難場所の確認

- ・学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認する。

2. 台風が接近しているとき

*台風情報に注意する。

- ・気象台からの最新の気象情報がテレビ、ラジオで伝えられる。情報を得たら、再度家の周りの安全確認をする。

*注意報・警報に気をつける。

- ・被害の出る恐れがあるときは、注意報・警報が発表されるので最新の情報を入手する。

*危険な場所に近づかない。

- ・雨で増水した小川や側溝は境界線が見えなかったり、冠水した道路上では浮き上がったマンホールも見えにくいため、転落事故が多発する。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなるので、日ごろ安全な場所でも油断せず、このような場所にはむやみに近づかない。

3. 台風が上陸後

*家から出ない。特に、海岸・川岸付近は危険！

- ・ハザードマップで付近の危険地域を確認する。



*いつでも避難出来るようにしておく。

- ・危険地域になっていなくても、「うちは大丈夫」「まだ大丈夫」と甘くみず、早めの避難行動をとる。

*警戒は最後まで

- ・台風が通り過ぎたり、熱帯低気圧に変わったりしても、吹き返しの強い風が吹いたり、雨が降り続いたりすることがあるので、警報や注意報が解除されるまでは警戒を続ける。

台風による主な災害

1. 大雨

*台風の進行方向右側の地域では、大雨に対するより一層の警戒が必要！

- ・台風の南よりの暖かく湿った強風が、南～南東の山地の斜面に吹き込み、地形によって強制的に空気が上昇することで、雨雲が非常に発達し、激しい雨を降らせることがある。

*台風+前線+高気圧

- ・停滞前線に向かって、台風や太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になる。台風が離れていても前線付近では大雨に警戒すること。また、必ず最新の気象情報を確認し、河川の氾濫、土砂災害にも警戒が必要。

2. 高潮

*南に開けた湾で高潮注意！

- ・台風の風は反時計回りで進行方向の右側で強くなっているため、陸地にいりこんだ湾で台風が西側を北上した場合に、南風が吹き続けて高潮が起こりやすい。特に、遠浅で南に開いた湾や満潮時刻が重なった場合は警戒が必要。



3. 強風・暴風

*台風の進行方向右側では強風に注意！

*入り江や海峡など地形の影響を受けるところでは強制的に注意！

*吹き返しの風に注意

- ・台風の目の通過前に南よりの強風から、接近とともに猛烈な南風になり、台風の眼が過ぎ去ったあとに反対の北よりの風が強風が強く吹き返すことがある。

*海岸近くでは塩風害に注意

- ・強い風が海から陸に向かって吹き込む場合は、多くの塩の粒子が運ばれ、植物の枯死や停電を起こすことがある。

*山地の風下でフェーン現象による高温・乾燥に注意

- ・台風が南海上から近づき、日本海側に暖かく乾燥した南風が吹き降りたとき、その地方は高温乾燥となり、火災が多発しやすくなる。